
音音と俺

松竹梅

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

音音と俺

【Nコード】

N9724B

【作者名】

松竹梅

【あらすじ】

ひよんなことから主人公のタケルは音音と出会う。音音の不思議な力や魅力に徐々にタケルはひかれていく。ちよっぴり等身大でちよっぴりファンタジーな世界へあなたを誘います。

第1話&1t;始まり>

〈第1話〉

けたたましい携帯のバイブ音で目が覚める。

「ったく、誰だこんなところで…あっ…、俺だ」

ここは大学の図書館。どうやら俺は勉強しながらいつの間にか、いや、確信的に寝てしまったようだ。

俺はK大学の4年生。大学生活もあと1年足らず。目下夢に向かって勉強中だ。俺は眠い目をこすりながら図書館を出て眠気を冷ますためにコーヒーと風を求めて外をぶらつく。この大学でもいろいろなことがあった。ここまでの3年間は決して良くもないし、悪くもない。まあつまり中の中だ。そんなことを思いながら歩いていると、「おい、タケちゃん」振り返るとそこには友人の哲夫がいた。俺の名前は高橋タケル。だからみんなタケちゃんと呼ぶがこの年になってもそう呼ばれるのは少し気恥ずかしい感じもする。

おっといつまでも俺が解説していると面倒くさい。ここからはナレーションを入れるか。

「なんだ、哲夫か」

「なんだとはなんだ？ずいぶん眠そうだな？」

哲夫がタケルの顔をのぞきこみながら言った。

「図書館で寝てたんだよ」

「タケちゃん、良いか？図書館ってのは勉強するためにあるんだ。寝るためにあるんじゃないぞ」

少々ばかにしたような言い方で哲夫はしゃべった。

「うるさいなあ。わかってるよ。だからこうして外を歩いて眠気をさましてるんだよ」

「へー、そうだ。お前がバイトしてるイタリアンの店、なんて名前だったけ？」

「何だよ、急に」「良いから、えっと…確か、アリ…」

「アリデベルチ」

「そうそう、それぞれ。まあ店の名前なんかどうでも良いんだけどな」

「えゝ？なら聞くなよ」

「実は俺のサークルの後輩がそこでバイトしたがって、んでタケちゃんはそのアリデベルチ？でバイトしてる。俺とタケちゃんは親友だ。」

哲夫がぺらぺらしゃべる間にタケルは自販機で缶コーヒーをどれを買うか悩んでいる。

「おい、聞いているのかタケちゃん。わかったか？つまりそうゆうわけだ」

「どうゆうわけだよ？」

コーヒーを飲みながらタケルは少し不機嫌そうに言った。

「タケちゃん、空気読めよな」

「よくするに、俺にその後輩とやらをウチのバイト先に紹介しろってか？」

「タケちゃん、さすが。モノが違うねゝ」

「何言ってるんだ？しかし、そんな面倒くさいことしたくはねえなあ」

「頼むよタケちゃん、実はもうバッチリだってその子には言ってるんだ」

「…お前は本当自由だな」

「今度アメでもおごるよ」

「足りるかよ！で、そいつはどんなやつなんだ？」

「お、引き受けてくれる？」

「しょうがないだろ？」

「今2年生で文学部だ。名前は藤崎ねおんってんだ」

「ネオン？どんな字だよ？」

「音2つでねおんらしい、イカしてるだろ？」

哲夫は自分のことのように胸を張った。

「女の子か、今ホールは足りてるんだよな。まあいずれにせよ、一回のネオンちゃんとやらに会ってみたいなとな」

「サンキュー！また連絡するぜ！じゃあ俺授業だからまたな！」

哲夫は走って消えて行った。タケルはそれを遠目に見ながらコーヒーを飲み干して。空を眺めた。

「面倒くせえ〜！」

そう、タケルはとにかく面倒くせえが口癖。なにをするにもまずはその言葉が口から出る。

哲夫が絡めば面倒くさいことは今までも大いにあったが今回のその『面倒くさいこと』がタケルの人生を大きく変えることになる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9724b/>

音音と俺

2010年10月24日03時43分発行